

にしだ昭二 プロフィール

1969年5月1日生まれ

七尾市立香島中学校/石川県立七尾商業高校

愛知学院大学商学部 卒業

七尾市議会議員 3期

石川県議会議員 3期

第108代石川県議会副議長

衆議院議員 3期



相撲四段。石川県相撲選手権大会に、当時衆議院議員の馳浩石川県知事と一緒に出場しました。得意料理は、ちゃんこ鍋です。



3期8年。積み重ねてきた信頼が、いま能登を支えています。

愚直に現場へ出ることを大切にしてきました。その人間関係が、復旧・復興を前に進めています。

国と現場をつなぐ調整力

被災地の声を省庁に直接届け、制度を「現場で使える支援」に調整。こまめなやり取りが、柔軟な制度設計につながっています。



現職を含む経歴

政府

総務大臣政務官、国土交通大臣政務官、復興大臣政務官、内閣府大臣政務官

衆議院

国土交通委員会、内閣委員会、農林水産委員会、災害対策特別委員会、原子力問題調査特別委員会、消費者問題に関する特別委員会、科学技術・イノベーション推進特別委員会、国土審議会豪雪地帯分科会

自民党

国土交通副部長、農林副部長、水産部会長代理、災害対策特別委員会幹事長、農林水産関係団体副委員長、国土・建設関係団体副委員長、女性局次長、広報本部出版局次長、国会対策副委員長

ふるさと座談会で、声をかたちに。

地域ごとにふるさと座談会を開催。

暮らしの困りごとや復興への要望を、顔の見える関係の中で受け止めてきました。現場の声を聞き、すぐに動く。この積み重ねが、復興を後押ししています。



座談会での声

Q 仮設住宅への入居はいつまで延長されますか。先が不安です。

A 最後のお一人まで支援します。国からも、「入居期間の延長が必要であれば、国として柔軟に対応する」と回答を得ています。



Q 仮設住宅で万が一の時に、周囲に異変を知らせることができる防犯ブザーが欲しいです。

A 防犯ブザーの寄贈が実現しました。



Q 準半壊以下では支援が少ないです。補助制度を拡充してもらえませんか。

A 自宅再建のための能登創生住まい支援金や、能登創造的復興支援交付金など、新たな交付金が創設されました。



にしだ昭二後援会事務所

〒926-0041 七尾市府中町員外 26 番地

TEL 0767-58-6140

FAX 0767-58-6141



活動はこちらからご覧ください

自民党

責任ある復興

にしだ昭二 衆議院議員

【討議資料】

復興への取り組み

前例にとられない国の支援を実現

被災自治体の実情を国に伝え、総額約540億円の復興基金や、500億円の能登創造的復興支援交付金の創設につなげました。インフラ、住まい、なりわいなど、幅広い復興事業に使える財源です。

液状化被害からの復興

支援制度がなかった地盤沈下や住宅の傾きなどの液状化被害にも、国の支援が及ぶよう制度整備を進めました。本格復旧に向けた地籍調査は当初、6年かかる見通しでしたが、今年度中の完了目標にまで短縮しました。

農林水産業の再生

地震と豪雨により被災した農地や用排水路、農業施設の復旧に加え、農業機械の再取得や営農再開への支援を進めてきました。あわせて、漁港と施設などの生産基盤の再建を推進し、地域の一次産業を守る復興に取り組んでいます。

住まいと暮らしの復興を推進

被災者生活再建支援金の拡充により、新築・購入・修繕など、それぞれの事情に応じた住まいの再建が可能になりました。また、県と連携して、災害公営住宅の家賃を3年間無料とし、住民の負担が軽減されるよう進めています。

道路・インフラの復興の加速化

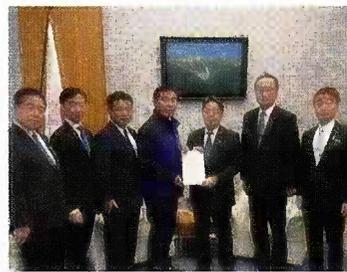
通勤・通学・物流に欠かせない道路整備を強力に推進しました。のと里山海道は日常の移動と地域経済を支える基盤です。2025年内には震災前と同程度の走行性を確保し、更に完全復旧に向けて加速化します。

なりわいと雇用の再生

被災後も雇用を守るよう、雇用調整助成金の特例措置の適用と1年延長を実現しました。あわせて、在籍型 outward を後押しする産業雇用安定助成金を創設し、事業と働く場を守りながら、地域の雇用をつなぎ留めてきました。

観光産業の再建

和倉温泉の再生は復興の重要課題です。護岸の公有化と代行復旧で2026年度中の本復旧を目指します。旅館再建のための優遇措置として、大規模な補助金制度を運用、2028年までの完全再開を目標としています。また、千里浜海岸の侵食対策のため、最新のシミュレーション技術を用いた効果検証を進めています。



ごあいさつ

能登半島地震、そして奥能登豪雨から、月日が重なりました。

復興は今なお道半ばにあります。

私はこの2年間、現場に足を運び、寄せられた声の一つひとつ受け止めながら復旧・復興に取り組んできました。そしていま、高市早苗総理大臣のもとで、国の決断と現場の実情を結びつける復興を、さらに前へ進めようとしています。

被災からの再建にとどまらず、農林水産業が再び誇りと希望を持って続けられる仕事となり、若い世代が「戻りたい」「ここで生きていきたい」と思える地域を目指して、復興は次の段階へ進んでいます。

これからは、復興を「元に戻す」段階から、「次の成長につなげる」段階へ。

高市総理大臣と力を合わせ、国の責任で復興を最後までやり抜く。その覚悟で、暮らしの安心を確かな形に変えていきます。このふるさとで、これから先の未来も描けるように。

皆様とともに、復興のその先まで、責任を持って取り組んでまいります。

白田 昭二

